

第1回 富士川町男女共同参画推進委員会 会議録

1. 会議の名称 第1回富士川町男女共同参画推進委員会
2. 会議日時 令和3年5月13日(木)午後7時～
3. 開催場所 富士川町役場 1階会議室
4. 出席者 出席7名 欠席1名
5. 傍聴人数 0名
6. 会議の内容 (1) 令和2年度の計画進捗状況について
(2) 令和3年度の活動計画について
(3) 県立男女共同参画推進センターについて

7. 発言等の内容

(1) 令和2年度の計画進捗状況について

【事務局：資料1の説明】

平成27年度に策定した、第一次推進プランの目標設定に対する令和2年度の取り組み状況をまとめた。令和2年度は、すべての分野において、新型コロナウイルス感染症拡大が影響している。催し等が実施できなかったものが多く、単年度の実績で見ると目標に届いていない項目が多くあるが、5年間の取り組みとしては、成果といえる数値も見受けられる。

例えば、「審議会等への女性委員の登用比率」は、平成27年度の現状値16.9%に対して、令和2年度は23.7%で、6.8ポイント上昇した。委員等の登用の際に、目標の30%を庁内全体の目標として、意識的に登用した成果と考えられる。審議会の種類によっては、充て職が多いものなど、女性の登用率を上げにくいものもあるが、そういった問題点について、改善策の検討を今後は行っていきたい。

また、啓発記事を広報ふじかわに毎月掲載することができた。「男女共同参画」ということについて、町民の皆さんに知っていただき、興味を持っていただくことができたと思う。

(2) 令和3年度の活動計画について

【事務局：資料2の説明】

現委員の任期は、6月30日までとなる。7月1日には、推進委員委嘱式及び第2回推進委員会を行う予定。

6月は、男女共同参画推進月間となるため、記念事業として、様々な催しが行われる。委員の皆さんには、積極的な参加をお願いしたい。

(3) 県立男女共同参画推進センターについて

【事務局：資料3の説明】

4月13日に市町村男女共同参画担当課長会議があり、県立男女共同参画推進センターの今後の運営方針について説明を受けた。

県では、平成29年から、「公共施設のあり方検討」において、県施設の集約化・複合化・統廃合等の検討をしてきた。男女共同参画推進センターについては、稼働率の低さや拠点としての機能等に課題があるため、機能集約という方向も含めて、令和3年度も継続して検討していく対象施設となった。

今後、関係団体等との意見交換会を実施し、幅広く意見を聴いた上で、方針を決定するとのこと。

本日の委員会では、施設の活用や、「拠点」としてのあり方、町民にとっての必要性・利便性など、男女共同参画推進センターがどうあるべきか、委員の皆さんの意見を伺いたい。

【意見】

- ・ぴゅあ峡南は、遠くて利用しにくい。
- ・峡南は人口が少ないので、他の2館に比べて利用者が少ないのでは。
- ・峡南の拠点であれば、身延町あたりが集まりやすいのでは。
- ・委員になって初めて、ぴゅあ峡南のことを詳しく知った。講演会やフェスティバルなど、様々な催しがあり、参加したい内容のものも多いが、行くとなると最低でも半日がかりとなり、時間的に厳しいことが多い。やっている内容はいいと思うが、もう少し近ければと思う。
- ・富士川町民は、ぴゅあ峡南でもぴゅあ総合でも利用できるが、南部町の人たちは、甲府市まで出てくるのは難しい。
- ・文化圏という考え方がある。地域から学校とか施設とかが無くなるとその地域の文化が廃れてしまう。そういうことを考えると地域にとって廃止ということはすごく大きいことだと思う。
- ・学校の統廃合の例を考えると、学校が地域にあるのとないのとでは大きく違うように、拠点がなくなるということは、地域にとって大きい問題。
- ・日本の「ジェンダー平等」は、世界から遅れている状況にある。日本の中でも山梨県は特に遅れている。少しでも、意識を高めていきたいという中で、拠点を無くすという方針は、いかがなものか。
- ・富士川町としては、ということもあるが、峡南とか県全体のこととして考えるべき。
- ・意識が高まりつつある中で、拠点がなくなるということに不安がある。利活用の方法を考えて、上手に活用していくことを検討したらどうか。
- ・興味のある講座などがあっても時間的に参加がむずかしいことが多い。
- ・拠点があって、学習機会があるということは大事なことだと思う。

【事務局】

峡南地域の各町の男女共同参画委員会で、ぴゅあ峡南の存続を求めて県に要請書を出すという動きがあるが、どう考えるか。

【意見】

- ・ 県の方針も変わってきている。これから幅広く意見を聞いた上で方針を決定すると言っているから、今すぐ委員会としての意見を集約し、県に要請するのではなく、町の委員会の中で、今後、継続して検討を重ねるべき。
- ・ 稼働率が低いことや、外部評価で峡南の拠点としての役割を果たしているとは言えないと評価されたことが大きな要因だと思う。稼働率を上げていく取り組みが必要。
- ・ 富士川町として、県にぴゅあ峡南の存続を求めたとしても、この先、富士川町民の利用率を上げることは位置的に難しいと思う。
- ・ 今後の県の検討の中で、例えば、拠点の位置を変えるなどの方針が出るかもしれない。そうなれば、町民にとってはそのほうがいいということもあるので、今すぐ要請をするのではなく、県の検討を見ながら、町としての考えをまとめていくほうがいいと思う。
- ・ 峡南地域の拠点ということであれば、場所を変えないと稼働率を上げるのは難しいと思う。富士川町の利用者は増えないと思う。
- ・ 稼働率は低くても、拠点があるということが大事だと思う。

【検討結果】

- ・ 今後の県の検討を注視しながら、町の委員会においても、男女共同参画推進の拠点としてのあり方や利活用の促進について、検討を重ねる。
- ・ 委員の皆さんには、これまで以上に男女共同参画推進センターを利用していただき、現状を把握し、推進活動における問題点、改善すべき点等を考えていただきたい。